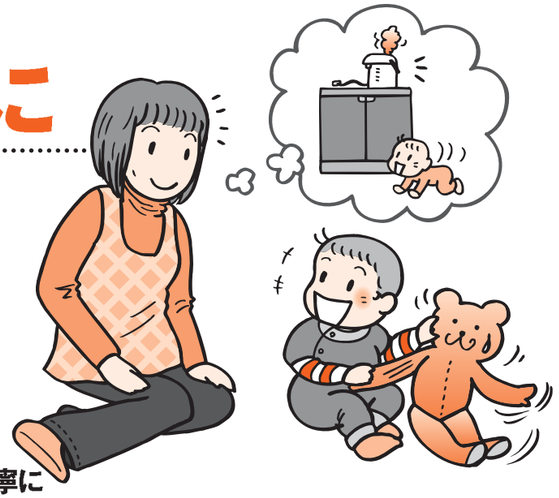
PDF版

事故を防ぐために



1 乳幼児のいる家庭では、使うべきかどうか考えよう

電気ジャーポットにはさまざまな安全装置がついていますが、蒸気が出ること、多量の熱湯が入っていることなどから、乳幼児のいる家庭で使うべきかどうかについては、考えたほうがよいでしょう。

2 置き場所に注意し、ふたを閉めるときは丁寧に

ふたを勢いよく閉めると、熱湯が出たり蒸気が出たりするものもありました。注意表示に従って、ふたの取り扱いは丁寧に行いましょう。

また、電気ジャーポットが転倒すると熱湯が出てくるものもありました。乳幼児がいる家庭などで使う場合には、置き場所について特に細心の注意が必要です。乳幼児の手の届かないところや、コードを引っかけないようなところに置きましょう。

3 マグネットプラグの接続にも注意して

マグネットプラグの電極部は、磁石になっています。このため、クリップなどの金属片がくっついてしまうおそれがあります。それに気つかずに接続させると、ショートして火花や発煙などの危険もあります。マグネットプラグを接続する際には、金属片などが付いていないかを確認しましょう。

4 発泡成分入りのポット洗浄剤を使うときは、注意表示に従うこと

発泡成分が入ったポット洗浄剤を使う場合は、これを熱湯に入れると勢いよく噴き出すことがあり危険です。あやまった使い方をしないよう、きちんと注意表示を守って使いましょう。

事業者への要望

①ふたを勢いよく閉めると熱湯が噴き出すものや、転倒・傾斜すると熱湯が流出するものがありました。これらを防ぐような改善を望みます。

②マグネットプラグの電極部にクリップなどが付いていることを知らずに接続し、ショートする事故などが発生しています。事故を未然に防ぐような改善を望みます。

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
無断転載はお断りいたします。

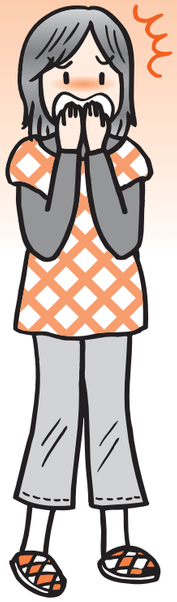
独立行政法人
国民生活センター
〒108-8602 東京都港区高輪3-13-22 TEL.03(3443)1793
●2004年2月発行

デザイン＝花村デザイン事務所
イラスト＝ヒラヤマミワ

くらしの危険 Number 266

電気ジャーポット

国民生活センター危害情報システムには
電気ジャーポットでの事故情報が毎年寄せられています。



多くはやけどで、3人に1人は治療に3週間以上かかっており、皮膚移植や手術をした重症例もありました。

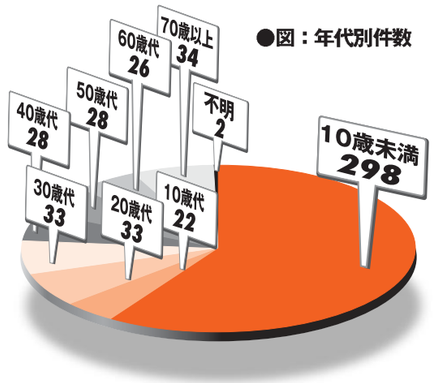
皮膚移植や手術をしたものも

医療機関を受診した488件中、治療期間がわかるものは253件ありました。このうち、治療期間が1ヶ月以上だったのは35件（13.8%）で、3週間から1ヶ月かかったのは45件（17.8%）でした。両方あわせると3人に1人は3週間以上治療した重症のケースだったことがわかりました。なかには皮膚移植や手術が必要なケースもありました。

0～1歳の乳幼児に多い

1997年度～2003年度(2003年11月末まで)に国民生活センターに寄せられた、電気ジャーポットに関する事故情報は504件でした。

10歳未満の子どもが全体の半数以上の298件を占め、そのうち0～1歳が圧倒的に多く228件でした（図）。



ほとんどがやけどの事故

最も多いのはやけどで、492件（97.6%）でした。体の部位別にみると、足、次いで腕・手に多くけがをしていました。

PDF版

電気ジャーポットでこんな事故が起きています

1 熱湯が出た

ケース1 電気ジャーポットのふたを開け水量を確認した後、ふたを閉めたら熱湯が噴き出しやけどした。（30歳代・男性）

ケース2 電気ジャーポットのお湯が両足にかかり、足首から先に2度のやけどを負った。（10ヶ月・男児）

2 転倒

ケース3 子どもが電気ジャーポットを倒し、両足に2度のやけどを負った。（9ヶ月・女児）

ケース4 電気ジャーポットのコードを引っ張ったら、電気ジャーポットが倒れてお湯をかぶりやけどした。（1歳・男児）

3 蒸気

ケース5 電気ジャーポットの蒸気がかかり、ひじの上に2度のやけどをした。（60歳代・女性）

ケース6 電気ジャーポットの蒸気孔から出る湯気に手を差し出して触れ、中指と人差し指にやけどを負い、皮膚移植をした。（1歳・男児）

4 その他

ケース7 **マグネットプラグ**：電気ジャーポットの磁石付きプラグにクリップが吸い付き、発熱してクリップが焼き切れた。

ケース8 **ポット洗浄剤**：電気ジャーポットを洗浄しようとポット洗浄剤を入れて電気を入れたところ、蒸気孔など3ヶ所から熱湯が噴き出てやけどした。（30歳代・女性）

電気ジャーポットの安全性についてテストしました

国民生活センターでは、2002年11月～2003年2月までに、電気ジャーポット18銘柄についてテストを行いました。

◎ふたを勢いよく閉めるとお湯や蒸気が出るものも

取扱説明書に「ふたを勢いよく閉めない」という注意書きがありますが、ふたを勢いよく閉めると、電気ジャーポットの注ぎ口から熱湯が流出するものがありました。電気ジャーポットには、転倒した際に熱湯が蒸気孔から出ないように弁がついているものがありますが、このタイプのものは、ふたを勢いよく閉めるとその弁が蒸気孔をふさぐ状態となります。このように蒸気の逃げ場がなくなると内圧が高まり、熱湯が注ぎ口から押し出されるのです。

注ぎ口から熱湯が流出するだけではなく、ふたと本体の間から蒸気が出たり、まれにふたが外れ熱湯が噴き上がったものもありました。

◎転倒させたり傾けて熱湯が出たものがあった

電気ジャーポットを転倒させてみたところ、一部のポットでは、蒸気孔、ふたと本体の間、注ぎ口から熱湯が流出しました。また、前方や後方に電気ジャーポットを傾けてみると、どれも注ぎ口や蒸気孔から熱湯が流出しました。

◎マグネットプラグの危険

マグネットプラグは、着脱が簡単で、コードに手足をひっかけた場合にすぐ外れて本体を倒さずにすむなど、安全面での利点があるため、さまざまな家電製品で使われています。しかし、マグネットプラグの電極部にクリップが吸い付いたことを知らずに接続したため発熱して火災になったという事故も起きています。

そこで、マグネットプラグにクリップが付いた状態で接続してみたところ、火花が出てプラグの接続部が黒く焼け、クリップの一部が溶けていました。

◎発泡成分入りポット洗浄剤は使い方をあやまると危険

電気ジャーポットの内側の汚れを取るために、ポット洗浄剤が市販されています。これには、発泡成分入りのものとクエン酸を成分としたものがあります。発泡成分入りのものには「熱湯に使用しない。電源を入れたまま使用しない。上ぶたを閉めて使用しない」などの警告があります。これをあやまって熱湯の中に入れると、熱湯が噴き出して危険な状態となりました。一方、クエン酸を成分としたポット洗浄剤は、特に噴き出すことはありませんでした。